

報告事項イ

件名	「のびのびチャレンジ事業」について
提出理由	「のびのびチャレンジ事業」について、別紙のとおり報告します。
概要	<ol style="list-style-type: none">1 目的2 事業概要<ol style="list-style-type: none">(1) 背景(2) 課題(3) 令和元年度の事業内容(4) 1泊2日の宿泊体験による子供たちの変容（I K R分析）(5) 成果と課題3 今後の展望4 参考（その他の取組）

（生涯学習推進課）

「のびのびチャレンジ事業」について

1 目的

- 家庭の経済的事情から学校以外での体験活動を十分に受けることができない子供たちに対し、体験活動を提供し、健やかな人格形成を図る。

2 事業概要

(1) 背景

- 子供の貧困率は、平成9年度以降、13%以上を推移
《出典》厚生労働省 国民生活基礎調査
- 家庭の経済格差と子供の非認知能力格差の関係
 - ・ 家庭の経済状況が非認知能力にも影響を与える。
 - ・ 非認知能力の向上が認知能力の向上をもたらす。《出典》(公財)日本財団「家庭の経済格差と子どもの認知・非認知能力格差の関係分析」
- 貧困の連鎖解消に向けた埼玉県(福祉部)の取組
 - ・ 平成22年度～学習支援事業(中・高校生対象)
 - ・ 平成30年度～ジュニア・アスポート事業(小学生へ対象を拡大)

(2) 課題

- アスポート学習支援教室において体験活動を充実する必要がある。
- 非認知能力を高めるための効果的な体験活動プログラムについて研究し、効果を検証する必要がある。



(3) 令和元年度の事業内容

① 加須げんきプラザ（12月14日～15日：神川げんきプラザで実施）

【20人参加】

	活動プログラム	活動内容
1日目 昼	アドベンチャー ポイントツアー	敷地内にある教育施設等を活用し、グループごとに設定された課題を解決しながら決められたチェックポイントを回る。 例：巨大シーソーを使ってバランスを取る。
1日目 夜	ナイトアウェアネス ウォーキング	月明かりだけの広いグラウンドで、走ったり寝転んだりする。五感をフルに使った夜の散歩を行い、気付いたことを発表する。
2日目	ピザ作り体験	グループで協力しながら、自由に形作り、具材を選んでピザを作る。

② 大滝げんきプラザ（11月9日～10日）

【19人参加】

	活動プログラム	活動内容
1日目 昼	グリーン アドベンチャー	敷地内を散策し、各ポイントで樹木について学んだり、グループごとに設定された課題を解決したりしながら決められたチェックポイントを回る。 例：樹木に関連した謎解き
1日目 夜	ネイチャークラフト	自分たちで集めた枝やどんぐりなどを使って作品を作る。自分の作品を発表したり、仲間の作品にコメントしたりする。
2日目	カレーライス作り 体験	グループで協力し、役割を分担してカレーライスを作る。

◎活動プログラムのねらいと実施に当たっての工夫

（ねらい）

- 仲間と協力することの重要性に気付かせる。
- 課題を最後までやり遂げることで得られる達成感を味わわせる。
- 子供たちに自己表現や自己決定をさせる。

（工夫）

- プログラム内の課題をグループ内で話し合い、協力しないと達成できないものとした。
- 活動中の役割分担・作業手順を子供たちに決定させるようにした。

(4) 1泊2日の宿泊体験による子供たちの変容(IKR分析※) 令和元年度調査

※IKR分析:国立青少年教育振興機構が作成した、「生きる力(心理的社会的能力/徳育的能力/身体的能力)」を測定するためのアンケート調査

	調査項目 (本人評価 5点満点)	加須げんきプラザ			大滝げんきプラザ		
		事前調査 (平均)	事後調査 (平均)	増減	事前調査 (平均)	事後調査 (平均)	増減
明朗性	1.だれにでも話しかけることができる 2.失敗しても、立ち直るのがはやい	3.9	4.3	+0.4	3.1	4.3	+1.2
現実肯定	3.自分のことが大好きである 4.だれにでも、あいさつができる	3.6	4.1	+0.5	3.8	4.6	+0.8
積極性	5.自分からすすんで何でもやる 6.前向きに、物事をとらえらえる	4.0	4.0	±0	4.1	4.2	+0.1
思いやり	7.人のために何かをしてあげるのが好きだ 8.人の心の痛みがわかる	4.0	4.0	±0	3.5	4.0	+0.5
交友協調	9.多くの人に好かれている 10.だれとでもなかよくできる	3.7	3.8	+0.1	3.3	3.9	+0.6

- ✓ 小学生を対象とした事業のため、「心理的社会的能力(=非認知能力)」に特化した10項目のアンケートを実施した。
- ✓ 事前と事後に調査を行い、数値の変化から子供たちの非認知能力の変容を分析した。

(5) 成果と課題

【成果】

- 子供たちの変容から、構成した体験活動プログラムが非認知能力(自己肯定感やコミュニケーション能力)の向上に一定の成果があることが判明した。

【課題】

- 加須・大滝げんきプラザ以外でも体験活動を提供できるようにするため、問題意識やスキルを他のげんきプラザ職員と共有していく必要がある。
- 継続的な機会の創出のためには、市町村やアスポート学習支援等との更なる連携が必要である。

3 今後の展望

- 非認知能力の向上を目指した体験活動プログラムの更なる研究を行う。
- 指定管理げんきプラザへ拡大し、出前講座なども活用しながら、6所全てでアスポート学習支援教室における体験活動の機会の創出を支援する。
- アスポート学習支援教室の支援員に体験活動プログラムのノウハウを提供し、日頃の活動に活かしてもらおう。
- 新たな現代的課題の解決に向けて検討し、調査研究を行う。

4 参考（その他の取組）

取組 1 いきいき体験活動事業（平成23年度～）

- 目的 特別支援学校等と連携し、障害のある子供とない子供が様々な体験活動を通して交流を図り、心のバリアフリーを目指す。
- 実績 げんきプラザ6所で計8回実施し、延べ229人参加（令和元年度）
- 事業内容
 - ・親子陶芸教室（親子での陶芸体験）
 - ・野あそびプログラム（親子での自然体験活動）
 - ・春のお泊り会（パラスポーツ体験等）



取組 2 わくわく未来事業（平成23年度～）

- 目的 集団活動や共同生活を通じて、不登校や引き籠もりなど学校生活に不安を抱える子供たちに登校へのきっかけ作りを行う。
- 実績 げんきプラザ6所で計9回実施し、延べ260人参加（令和元年度）
- 事業内容
 - ・チャレンジ手作り体験（うどん打ち体験等）
 - ・ホップ・ステップ・チャレンジ（アウトドア体験）
 - ・教えて釣り名人（親子での自然体験キャンプ）

